Akita Woman Interview

自分らしい生き方、働き方を探して

女性の働き方は、ライフステージによって変化し、ますます多様化しています。今回は、管理職としての道を切り開いた女性と、スキルを身に付け新しい分野に挑戦した女性にお話を伺いました。

通信技術のエキスパートとして 後進の尊敬を集めるリーダー

東北電力ネットワーク株式会社
秋田支社　通信センター
所長 池田 容子（いけだ ようこ）さん

1964年生まれ。宮城県仙台市出身。大学の工学部を卒業後、1987年に東北電力株式会社に入社。情報通信部総合通信網推進室、中央情報通信所などを経て2019年より現職。大学生、高校生の3男の母で、早朝のジョギングが日課。

※所属部署・役職は、取材時（2021.6）の内容です。

やはり地元で働きたい

東北電力ネットワーク株式会社 秋田支社、通信センター所長を務める池田容子さん。本社と管内7県の支社の中で唯一の女性所長を務めています。同社は、東北電力独自の通信ネットワークの構築と保守運用を行っています。

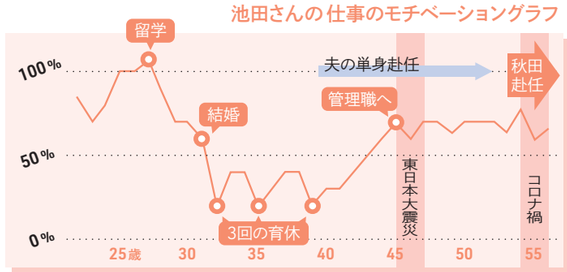
東京の大学に進学後、「やはり地元の東北で働きたい」と技術職の募集があった東北電力を志望し、初の女性の大卒社員に。研修を経て配属されたのが、情報通信部の総合通信網推進室でした。通信網管理システム（TOTEM-II）の開発プロジェクトに携わります。「大変でしたが最初に大きなプロジェクトを経験してよかったと思います。管理職になる時など、後々役立ちました」と池田さん。

3人の子育てと仕事をやりくり

入社10年目で同僚と結婚し、3人の男の子に恵まれました。お子さんの病気、夫の単身赴任などを、職場の理解やご両親の助けも得ながら乗り切りました。保育園からの急な呼び出しなどに対応できるよう、仕事の進め方に余裕を持つことや同僚と仕事内容を共有することを心掛けていたそうです。

がむしゃらに働くことができた独身時代と比べて、思うような働きができずに悩む時もありました。「『今は子育て期』と割り切って、子育てが落ち着いたらその分会社に貢献しようと考えていました」と、池田さん。子育ての時期は永遠には続きません。

池田さんの 仕事のモチベーショングラフ



長いスパンで考えるという姿勢も、女性のキャリア形成のために大切なことと言えそうです。

背中を見せながら、若手育成に力

子育てに一区切りついたタイミングで、新規のプロジェクトを任される管理職に。「迷いもありましたが、かつての上司に言われた『あなたにはセンターポジションになってほしい』という言葉が背中を押してくれました」と振り返ります。「私ができることならやろう」という思いで、新しい仕事や役職にチャレンジしてきました。

2年前に秋田転勤を打診された時も同じで、高校生の三男と夫を自宅に残しての単身赴任を決めました。秋田支社は若手社員が多く、後進の育成にもやりがいを感じています。「家庭と仕事のはざまで悩む女性が多いですが、男性にこそ両立が必要。仕事を辞めたら何があるか？」と部下に話し、家庭での生活や社外でのつながりも大切にするよう声を掛けています。

通信センター計画グループ
佐々木 彩乃さん

池田所長は、通信分野の女性技術社員のパイオニア。仕事と家庭を両立して、新しい仕事にもトライし続ける姿を尊敬しています。物腰柔らかな印象ですが、周囲からの「こうあるべき」という固定した考えに流されることがありません。職場を代表して率直な意見を言ってくれる、頼りになる存在です。いつも私たちに声を掛けてくださる、細かい配慮にも感謝しています。

部下から一言！

知らなかった分野に飛び込み システム担当として能力を発揮

社内イベントの様子

株式会社プライムアシスタンス
IT企画部　秋田ITチーム
楠 小雪（くすのき こゆき）さん

1989年生まれ。大学卒業後、2013年に茨城県の呉服店に入社。退職して結婚のために秋田へ移住し、2015年に株式会社プライムアシスタンスに入社。2018年より現職。2歳の女の子の母で、楽しみは深夜の海外ドラマ鑑賞。

異分野の業務内容へ挑戦

株式会社プライムアシスタンスのIT企画部に所属する楠小雪さんは、会社で使用するシステムや顧客を対象にしたアプリなどの開発に携わっている技術者です。同社は損保ジャパンで知られるSOMPOグループの一員として、自動車のトラブルに対応するロードアシスタンス事業などを行っています。

楠さんは技術者として採用されたわけではありません。結婚を機に秋田に移り住み「家庭と両立できる職場」という点に魅力を感じ同社へ入社。当初は総務担当をしていたところ、上司から「システム開発をやってみないか」と誘われたことでプログラミングに関心を持ち、テキストを購入するなどして、独学で学びました。

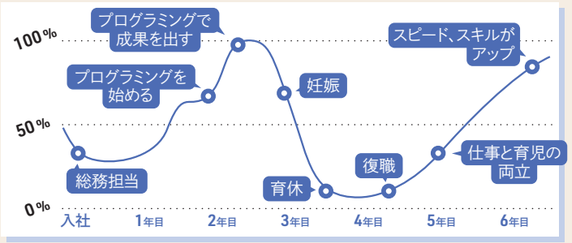
子育て中の時間を自信につなげる

前職は販売職でパソコンは得意ではなかった楠さんですが、プログラミングを始めてみると抵抗がなく、みるみるうちにスキルを身に付けていきます。システム担当への異動を果たしたところで、妊娠が判明します。「仕事でいよいよこれから、というタイミングだったので複雑な心境でした」と振り返ります。産前産後休暇、育児休業を取得したものの「自分の力が通用するのかという不安や、長く休むと自分の席がなくなってしまうのでは、といった焦りが募り、子どもの生後7ヵ月で職場復帰しました」と楠さん。休職中に資格取得の勉強をし、復職後に合格したことは自信につながりました。同社は2012年設立の若い会社。在職しながら妊娠出産を経験した社員は少なかったと言います。楠さんは、妊娠出産を経て仕事を続ける先駆的な存在となっています。

子育て中の社員も働きやすい環境を

仕事で充分な結果を出すために心掛けているのは、スピード感です。「途中でいったん経過を見せて相談し、軌道修正します。そして、期限前に100%の状態に仕上げるようにしています」と楠さん。最近は開発の業務に加えて、社員の仕事と家庭の両立を支援する制度づくりにも参加。産前に子育てについて学ぶための「プレパパ休暇」などの実現に関わりました。ロールモデルがいないことに戸惑った経験を生かして「これから子育てに取り組む社員の支えになりたい」と話してくれました。

楠さんの 仕事のモチベーショングラフ



IT企画部 秋田ITチーム **田中 俊成**さん

楠さんは、割り振られた仕事について、求めている以上の成果を出してくれる頼もしい存在です。システム開発に関してはリモートワークが進んでおり、打ち合わせなどもウェブ会議で行うことが多いです。楠さんはリモートワーク中心で、出社して顔を合わせるのは月に1、2度程度。お子さんのいるスタッフには働きやすい環境だと思います。

上司から一言！